#### 研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 2 年 5 月 2 7 日現在

機関番号: 14401

研究種目: 基盤研究(B)(一般)

研究期間: 2015~2018

課題番号: 15H02669

研究課題名(和文)生体情報の統計科学

研究課題名(英文)Statistical Science of Bioinformatics

研究代表者

狩野 裕 (Kano, Yutaka)

大阪大学・基礎工学研究科・教授

研究者番号:20201436

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 12.700.000円

研究成果の概要(和文):公刊された学術論文については9つに分類して報告することができる.その中では特に,欠測・欠損データ解析とメタアナリシスに関する研究成果および,巡回因果モデルに関する結果が顕著である.研究方法として重要な意見交換会等については,国際シンポジウム5件(学会大会での国際招待講演セッション開催を含む)および国内の中規模シンポジウム1件を組織し実施した.それぞれのシンポジウムにおける講演数 は3~20件であった.小規模セミナーは大阪大学において13回開催し計15件の講演があり,それぞれの講演に対して詳細な議論を行った.以上の活動が公刊された学術論文に結実している.

研究成果の学術的意義や社会的意義 社会的かつ学術的に最も顕著な研究成果は巡回因果モデルの開発である.循環する可能性のある因果関係は社会 的に大きな需要があるにもかかわらず,その基本的なコンセプトが成熟しなかったが故に,研究対象となること が殆ど無かった.本研究において発展させられた非線形関係を想定するモデルは,巡回因果モデルによる解析の 嚆矢となることが期待される.欠測・欠損データ解析での理論研究は今までの学術研究を完全化させることに貢 献する.また,欠測・欠損データ解析のための(数学的)条件を緩和することは,その適用範囲を広げることで あり,応用にも貢献できる可能性がある.

研究成果の概要(英文):We can summarize our research results as nine categories. In particular results on the missing data analysis and meta analysis are influential. For the results to obtain, we have organized and offered five international symposiums and a domestic one in the research period. Each of the symposiums consisted of 3 to 20 presenters. In addition, we have hosted small size colloquiums 13 times in Osaka University, where totally 15 speakers were invited; and essential discussions in the colloquiums helped to proceed and complete our research.

研究分野: データ科学

キーワード: 巡回因果モデル 欠測値データ解析 メタアナリシス 統計的因果推論 fMRIデータ 脳科学・脳情報

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

#### 1.研究開始当初の背景

統計学的方法論の進歩は科学技術を発展させる、科学技術の進歩はまた、方法論を発展させる、これらは車の両輪である、昨今、典型的には統計学的方法論に二つの方向性がある、一つは、等質な小標本から一般的な結論を導くための統計学から、異質で多様かつ時系列的に変化する大規模データから有意義な情報を抽出するための方法論を発展させること、他の一つは、今までブラックボックスとして処理してきたデータ発生機構を解明するための統計科学である、前者は、情報技術とネットワーク、そしてセンサリング技術の発展により様々なデータ収集と大規模データの蓄積が可能になったこと、後者は生体内部の情報を非侵襲型(身体を傷つけない)で計測できるようになってきたことが重要な役割を果たしている、

因果関係の同定はサイエンスの基礎である. とトの特性や行動の研究においても,その多くは原因と考えられる変数と結果変数間の関係を模索するものである. 伝統的な心理学はとトの外部からの刺激と結果としての行動を,身体内部での反応をブラックボックス化して,研究を進めてきた. 統計的方法もそういった目的に適合した方法が発展してきた. しかし,この 20 年,ブラックボックスの機能が,生理学,神経生理学,脳科学によって解明されつつある. 即ち,外的な刺激が身体内でどのような反応を生み結果変数として表出するのか,そのプロセスにメスが入ってきたのである. 因果関係の分析モデルにおける重要な制限は巡回的なモデルを扱えないということである. DAG(Directed Acyclic Graph)という名称にあるように,今までの研究は巡回モデルを避けて進んできたと言える.

原因系変数を潜在変数とみて結果変数の変動を説明する統計モデルも数多〈提案されてきた.多〈の研究者の納得了解の下,知能や能力,性格特性という脳内の仮想量(潜在変数)が結果変数を説明するモデルが構築され,潜在変数の値を予測するといったことが行われてきた.典型的には一世紀前に登場した因子分析モデルや項目反応モデルがそれにあたる.潜在変数モデルによる知見は膨大であり,たとえば,性格特性は大き〈5つに分かれるというBIG FIVE 理論,語学力を細か〈測定し異なった時に異なった試験を受けたとしても普遍的な能力を測定することができる TOEIC や TOEFL 試験の社会的インパクトは大きい.統計学で頻出する潜在変数の実体は何であるのか.潜在変数モデルの成功は,次にこのような課題を投げかけている.計量心理学のトップジャーナルである Psychometrika は 2013 年に fMRI データの分析を特集している(Guest editors: Maydeu-Olivars and Brown).それは本研究課題と方向を一にするものであるが,同特集は fMRI データの分析方法の紹介に留まっている.

神経生理学と統計学的方法論のコラボレーションの代表はニューラルネットワークである.この分野では近年深い階層を利用する Deep Learning が注目されている(Bengio 2012; Hilton 2013).ここで登場する「階層」は統計科学でいう潜在変数に対応する.当然ながら仮想的な階層とニューロンとのマッチングは重要である.

#### 2.研究の目的

21 世紀は脳の時代と言われ,脳機能や脳構造の研究が盛んであるが,そこには雑音に埋もれる信号の問題が障壁となっており,データ科学の貢献が期待される.多〈の研究分野で生物に倣えの号令の下,融合的研究が進んでいる.そこでは実証的研究が主を占めるが,そのデータ科学的分析方法は依然として20世紀型である.本研究を進めることで21世紀型のデータ科学を開発し,脳研究や生物科学研究に有意に貢献するデータ科学方法論を開発することを目的とした.具体的には,生体情報の分析において,巡回的な因果関係を実証的に統計分析可能とするような方法論を開発し,いくつかの実データに適用する.統計的因果推論では反事実モデルの導入は有効である.理想的には「反事実」を実現するクロスオーバーデザインの発展可能性を検討する.生体を対象とする限り,得られるはずのデータが得られないという欠測の問題を避けて通れない.21世紀型の欠測値データ解析の理論と応用を開拓する.なお,欠測値データ解析と統計的因果推論は強い関係がある.

## 3.研究の方法

著名研究者との意見交換・共同研究

研究を推進するため、関連の著名研究者(連携研究者,連携協力者)と意見交換する.具体的には,生物や人に関する因果構造分析の世界的第一人者である Victoria Savalei 教授,欠損値データ分析法の世界的第一人者である Jae Kwang Kim 教授と Mortaza Jamshidian 教授(California State U),モデル選択の専門家である渡辺澄夫教授(東工大)と Shu-Hui Yu 教授 (National U Kaohsiung),循環因果モデルにおいて顕著な業績を上げている Joris M. Mooij 教授(U Amsterdam)<sup>1</sup>, Forre Patrick 氏(U Amsterdam)および清水昌平教授(滋賀大),計量心理学の第一人者である Ke-Hai Yuan 教授(U Notre Dam),脳科学(fMRI データ分析)の専門家である三分一史和教授(統計数理研究所)等と意見交換し共同研究を行う.

#### 研究集会の開催

通期で定期的に数名の講演者からなる小規模研究集会を開催し、研究講演を行い、実質的な意見交換を行う、海外研究協力者と共に研究分担者、連携研究者を中心に問題・興味を共有する研究グループを構成する、そのために中規模の研究集会(国際ワークショップ)を開催する、学会大会において特定の

\_

<sup>1</sup> Mooji 氏は家庭の事情により来日が叶わなかった.

テーマを議論する招待講演セッションを組織し,内外に研究成果を配信するとともに,研究成果に対する 批評を得る.

### 4.研究成果

# 学術論文の公刊

- (1) 生物を対象とするデータの採取には欠測・欠損が免れない、適切な統計的分析を実行するには欠測メカニズムの同定が重要である、完全にランダムな欠測(MCAR)を統計的に検定する方法に欠測パターンごとのモーメントの等質性を検定する方法がある、本研究では、同方法には検出力が0となる MCAR でない欠測メカニズムが存在し、重大なピンホールになることを実例に基づき指摘した、本研究成果は Yuan、Jamashidian and Kano (2017)として計量心理学のトップジャーナル Psychometrika に出版された、
- (2) メタアナリシスとは、複数の過去の研究を統合することによってサンプルサイズを確保し過去の各研究より精度の高い統計解析を行うための方法論である、生物を対象とする統計分析では、例えば希少疾患の治療法の研究など、小さなサンプルしか得られない状況は多い、本研究では、メタアナリシスに構造方程式モデリングを適用するには、GLS、ML-GLS など様々な推定方法があるが、それらのうち主要なものは数学的に同値であることを証明した、本研究成果は、Yuan and Kano (2018) として英文国際誌 Journal of Educational and Behavioral Statistics に出版された。
- (3) 因果分析は生物情報分野に留まらず、様々な研究分野において主要なテーマである.しかし、特に因果の方向性すなわち A B or B A の決定の研究はほとんど進んでいない.このテーマについては、影響を規定する関数が非線形であるときに因果の方向を決定できる可能性があるという仮説の下に、理論研究・応用研究を進めている.本研究では影響を規定する関数が多項式であるときにこの仮説をサポートする理論的な結果が得られた、本研究成果は、Nagase and Kano(2017) として数理統計学の国際専門誌 Statistics and Probability Letters に出版された.
- (4) 二つの方式 A, B (たとえば薬剤 A と B)のどちらが、より有効であるかを検討する際、クロスオーバーデザインは重要な選択肢である。しかし、同デザインはキャリーオーバー効果が存在すると不適切になる。これを改善しようとした方法が Balaam デザインであるが、他方、その検定方式は検出力が低いという課題があった。本研究では、混合モデルのアイデアを注入することにより検出力を改善し統計解析の精度を向上させることに成功した。本研究成果は Mori and Kano (2015)として、薬剤研究に関する国際学術誌である Pharmaceutical Statistics に出版された。
- (5) 欠測データ解析は、生物情報分野を超えて様々な分野で重要になっている、しかし、その理解は十分ではなく、国際的な研究者でも大きな誤解がある、本研究では、その誤解を明示的に指摘するとともに、正しい理解とその拡張について議論した、研究成果は、狩野(2019)として日本統計学会誌に、また、狩野・今田(2017)として電気情報学会誌に出版された、なお、研究代表者である狩野は、欠測データ解析と生物情報に関する統計解析に関する研究成果により2018年度に日本統計学会賞が授与されている。
- (6) サル脳幹のアセチルコリン性の脚橋被蓋核において,特に随意眼球運動遂行中に, レンジ (8-30Hz)で規則的な単一ニューロン活動が生じることを発見し,国際的な学術雑誌である PLoS One に Okada and Kobayashi (2015) として公刊した.
- (7) ヒトの微小な重心の動揺の計測およびダイナミクスの統計解析によって,重心動揺のフィードバック制御に関する脳幹の姿勢制御および強化学習の役割を明確にした.研究成果は国際共著であり, 2016 IEEE 38th Annual International Conference において発表した.
- (8) 経済不平等性の拡大がうつ病指標を予測できることを統計的に示した。経済ゲーム中の自己と他の報酬の間の不平等によって誘発された扁桃体および海馬における機能的磁気共鳴イメージング活動パターンが、参加者の現在および将来の(1 年後に測定された)うつ病指標を予測できることを実証した。そのような予測は、参加者の行動的および社会経済的状態尺度を用いては不可能であった。研究成果は Tanaka, Yamamoto, and Haruno(2017)として当該分野におけるトップジャーナルであるNature Human Behaviour に掲載された.
- (9) ニューラルネットワーク(Neural Network, NN)は脳の神経網を統計モデル化したものである.深層学習(Deep Learning or Deep NN)には明らかに,浅い NN には無い特徴がある.しかし,数学的には浅いモデルでも任意の関数を表現することが可能であり,深層にする必要はないことが分かっている.この課題に対して,ディープラーニングの開発の基礎となるノイズ除去オートエンコーダ(DAE)の一連のトランスポートマップを指定することで,DNN のパフォーマンスの良さを解明した.本研究成果はSonoda and Murata (2019)として,機械学習分野のトップジャーナル Journal of Machine Learning Researchに掲載された.

### シンポジウムおよび大会セッションの組織と開催

(1) 科学研究費によるデータ科学シンポジウム 2015 「欠測データ解析とモデル選択:生体情報データの統計モデル」 会期 2016 年 1 月 22 日(金)~23 日(土).会場 大阪大学,豊中キャンパス. 講演者と講演タイトル

- ・鈴木 譲 (大阪大学). 欠損データを含む場合の森構造学習のベイズ最適化とゲ/ム解析への応用.
- 福元健太郎 (学習院大学), Missing Data under the Matched-Pair Design: A Practical Guide.
- ・奥野彰文 (大阪大学).反復重みつけによるロバストなマッチング相関分析.
- ◆ 寺田吉壱 (情報通信研究機構). fMRI データに対する血流動態反応関数のセミパラメトリック推測とその応用.
- ◆ 三分一史和 (統計数理研究所). A statistical mapping strategy to identify inspiratory neurons among active cells in the pre-Bötzinger Complex.
- ・倉田澄人 (大阪大学).ダイバージェンスに基づいたロバストなモデル選択について.
- ◆田辺竜ノ介 (大阪大学). spike and slab 事前分布を利用したスパース推定.
- ◆高井啓二 (関西大学). 欠測データにもとづ〈正規分布モデルの最尤推定における選択行列の使用について.
- ◆馬場崇充 (九州大学).傾向スコアを用いた因果推論のためのモデル選択.
- 若木宏文 (広島大学).ランダム係数を持つ GMANOVA モデルの変数選択規準. (special lecture)
- ◆新村秀一 (成蹊大学). 判別分析の 100 重交差検証法による誤分類確率と判別係数の 95%信頼区間とモデル選択.
- 藤越康祝 (広島大学). 高次元多変量線形モデルにおける次元の推定.
- ◆柳原宏和 (広島大学). Consistent Information Criterion for Normal Multivariate Linear Regression Model under High-dimensionality.
- ◆渡辺澄夫 (東京工業大学). 潜在変数を持つモデルの評価について. (special lecture)
- ◆ Discussants 阿部貴行(慶応義塾大学), 矢田和善(筑波大学)
- (2) International Invited-Paper Session Missing-data Analysis and SEM

Name of Meeting: Annual Meeting of the Japanese Federation of Statistical Science Associations Meeting Period: September 4-7, 2016. Meeting Place: Kanazawa University, Kakuma Campus Organizers: Yutaka Kano and Shimpei Imori (Osaka U)

Chair: Shimpei Imori (Osaka U)

- Ke-Hai Yuan (U Notre Dame) Missing Data Mechanisms and Homogeneity of Means and Variances-Covariances or Power Analysis for Structural Equation Modeling with Incomplete Data from an Unknown Population Distribution.
- Victoria Savalei (U British Columbia) and Mijke Rhemtulla (U Amsterdam) Two-stage ML Estimator for Item-Level Missing Data.
- Kosuke Morikawa (Osaka U), Jae Kwang Kim (lowa State U) and Yutaka Kano (Osaka U).
   Semiparametric maximum likelihood estimation under nonignorable nonresponse.
- Shimpei Imori (Osaka U). Model selection for data with nonignorable missingness.
- Kentaro Fukumoto (Gakushuin U) Missing data under the matched-pair design: a practical guide.
- (3) International Invited-Paper Session 「Recent Developments in Missing Data Analysis」
  Name of Meeting: Annual Meeting of the Japanese Federation of Statistical Science Associations
  Meeting Period: September 4-7, 2017. Meeting Place: Nanzan University, Nagoya Campus
  Organizers: Kosuke Morikawa and Yutaka Kano (Osaka U)
  Session Chair: Takayuki Abe (Keio U)
  - Jae Kwang Kim (lowa State U) and Shu Yang (North Carolina State U). Predictive mean matching imputation in survey sampling.
  - Hejian Sang (lowa State U), Gyuhyeong Goh (Kansas State U) and Jae Kwang Kim (lowa State U). Bayesian sparse propensity score estimation for unit nonresponse.
  - Kosuke Morikawa (Osaka U) and Jae Kwang Kim (lowa State U). The identification problem for nonignorable nonresponse data.
  - Keiji Takai (Kansai U) Parameter estimation with the incomplete-data Fisher scoring method.
  - Yoshiharu Takagi (Sanofi K.K.) and Yutaka Kano (Osaka U). Bias reduction using auxiliary variables in clinical trial.
- (4) Invited-Paper Session (SP21) Causal inference and related topics

Name of Meeting: The 15<sup>th</sup> International Federation of the Classification Societies (IFCS2017) Meeting Period: August 8-10, 2017

Meeting Place: Tokai University, Takanawa Campus

Organizer: Etsuo Hamada and Yutaka Kano (Osaka U)

Chair: Etsuo Hamada(Osaka U)

- Sumito Kurata (Osaka U). A robust model selection criterion family and its application for the causal model.
- Ching-Kang Ing (National Tsing Hua U). A high-dimensional location-dispersion model with dependent error and its applications to WTA data analysis
- Mario Nagase (Osaka U). Causal Analysis with Cyclic Structural Equation Models

- Kosuke Morikawa (Osaka U). Identification and Semiparametric Adaptive Estimation With Nonignorable Nonresponse Data.
- (5) Invited-Paper Session (SP22) Bayesian inference and model selection

Name of Meeting: The 15th International Federation of the Classification Societies (IFCS2017)

Meeting Period: August 8-10, 2017

Meeting Place: Tokai University, Takanawa Campus

Organizer: Etsuo Hamada and Yutaka Kano (Osaka U)

Chair: Ching-Kang Ing (National Tsing Hua U)

- Makoto Okada (U Tokyo). Online Ensemble Learning Using Hierarchical Bayesian Model Averaging...
- Masayuki Jimichi (Kwansei Gakuin U). Applied Feasible Generalized Ridge Regression Estimation to Linear Basis Function Models.
- Ryunosuke Tanabe (Osaka U). Bayesian interpretation of the \$\frac{4}{2}ell\_0\$ penalized linear regression estimator.
- Shu-Hui Yu (National U Kaohsiung). Order selection for high-dimensional non-stationary time series.
- (6) International Invited-Paper Session

Name of Meeting: The 47th Annual Meeting of the Behaviormetric Society

Meeting Period: September 3-6, 2019

Meeting Place: Osaka University, Toyonaka Campus

Organizer: Mario Nagase and Yutaka Kano (Osaka U)

- Forre Patrick(U Amsterdam). Markov properties for non-linear structural causal models with cycles and latent confounder.
- ◆ Mario Nagase (Osaka U). Causal discovery of cyclic nonlinear relations: Cyclic non-linear structure equation models with additive normal noise.
- Shohei Shimizu (Shiga U). Causal discovery based on non-Gaussianity of data and its applications.

### 小規模セミナーの開催

- (1) 令和元年6月12日(水) 松田孟留氏(東京大学 情報理工学系研究科 助教) 演 題: 特異値縮小型事前分布と経験ベイズ行列補完
- (2) 平成 30 年 6 月 20 日(水) 野間久史氏(統計数理研究所 准教授) 演 題: Precision Medicine, Comparative Effectiveness Research とデータサイエンス
- (3) 平成30年6月13日(水) 片山翔太氏(東京工業大学 工学院 経営工学系 助教) 演題: セルワイズな外れ値に対してロバストなスパースグラフィカルモデリング
- (4) 平成30年6月6日(水) 清野 健氏(大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授) 演 題: ウェアラブル生体センサとIOTを活用した実世界データ分析とその応用
- (5) July 28, 2017, 13:00-14:30 Dr. Jorge Tendeiro (University of Groningen) Title: Three-mode Principal Component Analysis (3MPCA) and Item Response Theory Dr. Rei Monden (University of Groningen)

Title: 3MPCA applied to clinical longitudinal data and Bayesian estimation for the efficacy of antidepressants

- (6) 平成29年7月14日(金) 服部 聡氏(大阪大学 大学院医学系研究科 教授) 演 題: 診断法研究のメタアナリシスにおける公表バイアスの影響評価
- (7) 平成 29 年 1 月 18 日(水) 鈴木良介氏(野村総合研究所(NRI), 主任コンサルタント) 演題: 見える化止まりにしないビッグデータ・IoT 活用
- (8) 平成 28 年 12 月 22 日(木) Vladimir Ulyanov (Moscow State University)
  Title: Bootstrap confidence sets for spectral projectors of sample covariance
- (9) 平成 28 年 10 月 7 日(金) Ke-Hai Yuan (University of Notre Dame, Professor)
  Title: Power Analysis for Structural Equation Modeling with Incomplete Data from an Unknown Population Distribution
- (10) 平成 28 年 7 月 8 日(金) 吉田裕亮氏(お茶の水女子大学 理学部 情報科学科) 演 題: 成分間に相関のあるランダム行列の時系列モデル解析への応用 平野敏弘氏(日本電気株式会社 中央研究所 データサイエンス研究所,研究員) 演 題: 大規模空間データに対する効率的な統計解析手法について
- (11) 平成 27 年 6 月 26 日(金) 逸見昌之氏(統計数理研究所,データ科学研究系) 演 題: 欠測を含むデータに対するセミパラメトリックな解析法について
- (12) 平成 27 年 5 月 29 日(金) 鈴木 譲氏(大阪大学 理学研究科) 演 題: 相互情報量の推定と独立性検定
- (13) 平成 27 年 5 月 15 日(金) 麻生英樹 (産業技術総合研究所) 演 題: Deep Learning (深層学習) による深層表現の学習

### 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件(うち査読付論文 11件/うち国際共著 4件/うちオープンアクセス 7件)

1. 書名名 Nyusika Kano Vusikak Kano Nusika	【雑誌論文】 計12件(うち査読付論文 11件/うち国際共著 4件/うちオーブンアクセス 7件)	
Miyuki   Imada, Kei Hirose, Manabu Yoshida, Sun Yong Kin, Naoya Toyozumi, Guillaune Lopez, and Yutaka Kano 2. 高級技器	1.著者名	4 . 巻
Tulaka Rano   2. 高校福留		_
2. 第次構題 An Interpersonal Sentiment Quantification Method Applied to Work Relationship Prediction 3. 創設名 NTT Technical Review  日本語のでは、アンテクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 Taking), Y. and Kano, Y. 2. 第次標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables 3. 創設名 Annals of the Institute of Statistical Wathematics  日本語のでは、デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 Annals of the Institute of Statistical Wathematics  日本語が表現して、デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 Reflay, Wathematics  1. 著名名 Reflay, Wathematics  日本語が表現して、デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 Reflay Wathematics  1. 著名名 Reflay Wathematics  1. 著名名 Reflay Wathematics  1. 著名名 Reflay Wathematics  2. 第次構題 Wissing data mechanisms and horogeneity of means and variances-covariances  3. 創設名 Psychonetrika  4. 音 日本刊ンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著名名 Tochiko Taraka, Takao Yamanoto, and Wasahiko Haruno  1. 著名名 Tochiko Taraka, Takao Yamanoto, and Wasahiko Haruno  1. 著名名 Tochiko Taraka, Takao Yamanoto, and Wasahiko Haruno  1. 第2 第2 解認名 Nature Human Behaviour  Mataize Quol (デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1  10.1038/484582-017-0207-1		15
An Interpersonal Sentiment Quantification Method Applied to Work Relationship Prediction 2017年  3. 雑誌名 NTT Technical Review 1-1-14  開報論文の001 (デジタルオプジェクト議別子) なし 2- 論文程題 1- 著名名 Takagi, Y. and Kano, Y. 2-1 論別子 2-2 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 5- 発行年 2018年  3. 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-1 高名名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-2 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-2 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-2 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics 1-3 記述のののののののののののののののののののののののののののののののののののの		
An Interpersonal Sentiment Quantification Method Applied to Work Relationship Prediction 2017年  3. 雑誌名 NTT Technical Review 1-14  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)	2.論文標題	5.発行年
3 . 科話名 NTT Tochnical Reviee 1-14   お栽譲文の001 (デジタルオブジェクト識別子)	An Interpersonal Sentiment Quantification Method Applied to Work Relationship Prediction	
NTT Technical Review   1-14	All interpersonal Sentiment quantification wethou Applied to not kerationship frediction	2017-
NTT Technical Review   1-14		
構取論文の201 (デジタルオブジェクト議別子) なし	3.雑誌名	6 . 最初と最後の頁
構取論文の201 (デジタルオブジェクト議別子) なし		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	NTT TECHNICAL NEVTEW	1-14
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難		
### オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
日際共著   日際共著   接当する   日際共著   接当する   日際共著   接当する   日本の日本		
### 1 ※ 第名名 Takagi, Y. and Kano, Y.  1 ・著名名 Takagi, Y. and Kano, Y.  2 ・論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 ・雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  6 ・最初と最後の頁 EIRM中  7 ・ ガーブンアクセス カーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 ・著名名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 ・雑誌名 Psychometrika  1 ・著名名 アタックトでファインス カーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 ・ 著名名 Psychometrika  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Rature Human Behaviour  2 ・読みで振題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Rature Human Behaviour  4 ・巻 1 ・	40	***
### 1 ※ 第名名 Takagi, Y. and Kano, Y.  1 ・著名名 Takagi, Y. and Kano, Y.  2 ・論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 ・雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  6 ・最初と最後の頁 EIRM中  7 ・ ガーブンアクセス カーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 ・著名名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 ・雑誌名 Psychometrika  1 ・著名名 アタックトでファインス カーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 ・ 著名名 Psychometrika  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・ 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Rature Human Behaviour  2 ・読みで振題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Rature Human Behaviour  4 ・巻 1 ・		
1 ・著者名 Takagi, Y. and Kano, Y.  2 ・論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 ・練誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  6 ・最初と最後の頁 印刷中  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 ・雑誌名 Psychonetrika  6 ・最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 ・ 発行年 2017年 2018	オープンアクセス	│国際共著│
1 ・著者名 Takagi, Y. and Kano, Y.  2 ・論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 ・練誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  6 ・最初と最後の頁 印刷中  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 ・雑誌名 Psychonetrika  6 ・最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 ・著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  3 ・雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 ・ 発行年 2017年 2018	オープンアクセフでけない、又けオープンアクセフが困難	該当する
Takagi, Y. and Kano, Y.  2 . 論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 . 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  ### ### ### ### ### ### ### ### ### #	カープンテクとへにはない。 大はカープンテクとスが 四邦	以コッツ
Takagi, Y. and Kano, Y.  2 . 論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 . 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  ### ### ### ### ### ### ### ### ### #		
Takagi, Y. and Kano, Y.  2 . 論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 . 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  ### ### ### ### ### ### ### ### ### #	1,著者名	4 . 巻
2 論文標題 Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  3 . 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  6 . 最初と最後の頁 ED刷中  超談論文の001(デジタルオプジェクト識別子) なし  1 . 著名名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  6 . 最初と最後の頁 ED刷中  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 ED刷中  5 . 発行年 2018年  1 . 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1 . 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  4 . 巻 1 . 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  4 . 巻 1 . 著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  3 . 雑誌名 Rature Human Behaviour  超談論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  国際共著 有 オープンアクセス  国際共著		_
Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  2018年  3. 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  信期中  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  5. 発行年 2018年  3. 雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  1. 著者名 Nature Human Behaviour  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1	Takayi, T. anu kano, T.	いる。
Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  2018年  3. 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  信期中  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  5. 発行年 2018年  3. 雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  1. 著者名 Nature Human Behaviour  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1		
Bias reduction using surrogate endpoints as auxiliary variables  2018年  3. 雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics  信期中  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  5. 発行年 2018年  3. 雑誌名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  1. 著者名 Nature Human Behaviour  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1. 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1  五読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1	2 . 論文標題	5 . 発行年
3 ・雑誌名 Annals of the Institute of Statistical Mathematics ED刷中  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3 ・雑誌名 Psychometrika 6 ・最初と最後の頁 ED刷中  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11356-018-9698-x オープンアクセス  オープンアクセス  コ 「著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 ・著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto inequity predict present and future depression indices 3 ・雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 1 ・著名名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3 ・雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  西談の有無 有 オープンアクセス  国際共著		
Annals of the Institute of Statistical Mathematics  印刷中  遺談の有無 なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika  信題がと最後の頁 印刷中  1. 著者名 「これのアグラルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、不成なの Yamamoto、 and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  接動論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	bias requestion using surrogate enuporities as auxiliary variables	ZU10 <del>'+</del>
Annals of the Institute of Statistical Mathematics  印刷中  遺談の有無 なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika  信題がと最後の頁 印刷中  1. 著者名 「これのアグラルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、不成なの Yamamoto、 and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  接動論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1		
Annals of the Institute of Statistical Mathematics  印刷中  遺談の有無 なし オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika  信題がと最後の頁 印刷中  1. 著者名 「これのアグラルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名 「こちはない、不成なの Yamamoto、 and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  接動論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  複数論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3 . 雑誌名 Psychometrika  お . 一  ま . 一  お . ・  お . ・  ま . ・  お . ・  お . ・  ま . ・  お . ・  ま .		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 - 1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 5 ・発行年 2018年 3 ・雑誌名 Psychometrika 6 ・最初と最後の頁 印刷中 10 ・1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 該当する 1 ・著者名 Toshiko Tanaka、Takao Yamamoto、and Masahiko Haruno 2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5 ・発行年 2017年 名 ・ 最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 意読の有無 6 ・最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	Allians of the institute of Statistical Mathematics	니까마
なし 有 オープンアクセス 国際共著 - 1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 5 ・発行年 2018年 3 ・雑誌名 Psychometrika 6 ・最初と最後の頁 印刷中 10 ・1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 該当する 1 ・著者名 Toshiko Tanaka、Takao Yamamoto、and Masahiko Haruno 2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5 ・発行年 2017年 名 ・ 最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 意読の有無 6 ・最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子)		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 - 1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 5 ・発行年 2018年 3 ・雑誌名 Psychometrika 6 ・最初と最後の頁 印刷中 10 ・1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 該当する 1 ・著者名 Toshiko Tanaka、Takao Yamamoto、and Masahiko Haruno 2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5 ・発行年 2017年 名 ・ 最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 意読の有無 6 ・最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子)		
なし 有 オープンアクセス 国際共著 - 1 ・著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 ・論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 5 ・発行年 2018年 3 ・雑誌名 Psychometrika 6 ・最初と最後の頁 印刷中 10 ・1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 国際共著 該当する 1 ・著者名 Toshiko Tanaka、Takao Yamamoto、and Masahiko Haruno 2 ・論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5 ・発行年 2017年 名 ・ 最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 意読の有無 6 ・最初と最後の頁 748-756 日報館交のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	掲載論文のDOL(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 1 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika 6. 最初と最後の頁 ED刷中  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x カープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 意当する  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  直読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1 有 オープンアクセス  国際共著	なし	有
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika 6. 最初と最後の頁 ED刷中  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x カープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 意当する  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  直読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1 有 オープンアクセス  国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 -  1. 著者名 Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances 3. 雑誌名 Psychometrika 6. 最初と最後の頁 ED刷中  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x カープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 意当する  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  直読の有無 10.1038/s41562-017-0207-1 有 オープンアクセス  国際共著	オープンアクセス	国際共著
1. 著者名   Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano   2. 論文標題   5. 発行年 2018年   2018年   3. 雑誌名   Psychometrika   6. 最初と最後の頁 日刷中   10.1007/s11336-018-9609-x   有   1. 著者名   Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno   2. 論文標題   Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices   1. 最初と最後の頁   1. 最初と最後の頁   1. 最初と最後の頁   1. 最初と最後の頁   2. 論文標題   2. 論文標題   3. 雑誌名   4. 是初かと最後の頁   748-756   748-756   1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.		
Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  周載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  西藤 大名・一方の名は、アイル・アンテクを表現を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。	オープンアグセスではない、文はオープンアグセスが困難	-
Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  周載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  西藤 大名・一方の名は、アイル・アンテクを表現を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。		
Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  周載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3. 雑誌名 Nature Human Behaviour  西藤 大名・一方の名は、アイル・アンテクを表現を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現します。 日本の方式を表現しまする。		
2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances       5. 発行年 2018年         3. 雑誌名 Psychometrika       6. 最初と最後の頁 印刷中         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x       査読の有無 有         オープンアクセス Tobniko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno       国際共著 1. 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno       4. 巻 1         2. 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices       5. 発行年 2017年         3. 雑誌名 Nature Human Behaviour       6. 最初と最後の頁 748-756         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	1	Δ 券
Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances 2018年  3 . 雑誌名 Psychometrika 6 . 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 . 義者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有  オープンアクセス  国際共著		
Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances 2018年  3 . 雑誌名 Psychometrika 6 . 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 . 義者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有  オープンアクセス  国際共著		
Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances 2018年  3 . 雑誌名 Psychometrika 6 . 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 . 義者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  超載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有  オープンアクセス  国際共著		
3 . 雑誌名 Psychometrika 6 . 最初と最後の頁 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有  オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  着戦論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  査読の有無 有 オーブンアクセス  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano	印刷中
Psychometrika 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  おも、最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  南 オープンアクセス  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2.論文標題	印刷中 5 . 発行年
Psychometrika 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  おも、最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  南 オープンアクセス  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2.論文標題	印刷中 5 . 発行年
Psychometrika 印刷中  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  おも、最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  南 オープンアクセス  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano 2 . 論文標題	印刷中 5 . 発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x 有 オープンアクセス  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  お . 最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  富読の有無 有 オープンアクセス  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances	印刷中 5.発行年 2018年
10.1007/s11336-018-9609-x 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する は、著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour 6 . 最初と最後の頁 748-756 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
10.1007/s11336-018-9609-x 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する は、著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour 6 . 最初と最後の頁 748-756 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
10.1007/s11336-018-9609-x 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する は、著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour 6 . 最初と最後の頁 748-756 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
10.1007/s11336-018-9609-x 有 国際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する は、著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1 5 . 発行年 2017年 3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour 6 . 最初と最後の頁 748-756 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 有 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 維誌名 Psychometrika	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著 該当する  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 維誌名 Psychometrika	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1  2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5.発行年 2017年  3.雑誌名 Nature Human Behaviour 6.最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1  2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5.発行年 2017年  3.雑誌名 Nature Human Behaviour 6.最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 該当する  1.著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 1  2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 5.発行年 2017年  3.雑誌名 Nature Human Behaviour 6.最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無
1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno 2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices 3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  オープンアクセス  4 . 巻 1  5 . 発行年 2017年  6 . 最初と最後の頁 748-756	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有
Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  6 . 最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著
Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  6 . 最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著
Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  6 . 最初と最後の頁 748-756  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著
2.論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices5.発行年 2017年3.雑誌名 Nature Human Behaviour6.最初と最後の頁 748-756掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1査読の有無 有オープンアクセス国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	印刷中 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する
Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  4 動動 でのDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  1 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1. 著者名	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する
Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  4 動動 でのDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  1 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2. 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3. 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する
Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3.雑誌名 Nature Human Behaviour  4 動動 でのDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  有  1 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する
3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  「相載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1  「有  国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1
Nature Human Behaviour       748-756         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年
Nature Human Behaviour       748-756         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年
Nature Human Behaviour       748-756         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1 オープンアクセス 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年
10.1038/s41562-017-0207-1有オープンアクセス国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁
10.1038/s41562-017-0207-1有オープンアクセス国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁
10.1038/s41562-017-0207-1有オープンアクセス国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁
10.1038/s41562-017-0207-1有オープンアクセス国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 .論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 .雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 .著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 .論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 .雑誌名 Nature Human Behaviour	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 748-756
	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁 748-756
	<ul> <li>Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano</li> <li>2.論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances</li> <li>3.雑誌名 Psychometrika</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁 748-756
	<ul> <li>Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano</li> <li>2.論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances</li> <li>3.雑誌名 Psychometrika</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x</li> <li>オープンアクセス</li></ul>	印刷中  5.発行年 2018年  6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1  5.発行年 2017年  6.最初と最後の頁 748-756
オーフンアクセスではない、乂はオーブンアクセスが困難	<ul> <li>Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano</li> <li>2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances</li> <li>3 . 雑誌名 Psychometrika</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x</li> <li>オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難</li> <li>1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno</li> <li>2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices</li> <li>3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour</li> <li>掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1</li> </ul>	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 748-756  査読の有無 有
	Ke-Hai Yuan, Mortaza Jamshidian and Yutaka Kano  2 . 論文標題 Missing data mechanisms and homogeneity of means and variances-covariances  3 . 雑誌名 Psychometrika  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11336-018-9609-x  オープンアクセス  オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 Toshiko Tanaka, Takao Yamamoto, and Masahiko Haruno  2 . 論文標題 Brain response patterns to economic inequity predict present and future depression indices  3 . 雑誌名 Nature Human Behaviour  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41562-017-0207-1	印刷中 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 有  国際共著 該当する  4.巻 1 5.発行年 2017年 6.最初と最後の頁 748-756  査読の有無 有

1. 著者名	. 111
	4.巻
Nagase, M. and Kano, Y.	122
2 . 論文標題	5 . 発行年
Identifiability of nonrecursive structural equation models	2017年
recitivity of homecursive structural equation moders	2017—
2 145-47	こ 目知し目後の否
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Statistics and Probability Letter	109-117
·	
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	
http://dx.doi.org/10.1016/j.spl.2016.11.010	有
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	_
S S S S C S C S C S C S C S C S C S C S	
. ***	4 244
1.著者名	4 . 巻
Kenjiro Michimoto, Yasuyuki Suzuki, Ken Kiyono, Yasushi Kobayashi, Pietro Morasso, Taishin	なし
Nomura	
2 . 論文標題	5.発行年
Reinforcement learning for stabilizing an inverted pendulum naturally leads to intermittent	2016年
feedback control as in human quiet standing	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC), 2016 IEEE 38th Annual International	37-40
Conference	31 - 40
Contended	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.1109/EMBC.2016.7590634	有
	13
オープンアクセス	国際共著
· · · · · · -· ·	
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
1.著者名	4 . 巻
Fumika Mori, Ken-ichi Okada, Taishin Nomura, Yasushi Kobayashi	10
FUIIINA WOLL, NEII-ICII ONAGA, LAISIIII NOIIULA, LASUSII NODAVASIII	
,, ,, ,, ,, ,	
2.論文標題	5.発行年
2.論文標題	5.発行年 2016年
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the	
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia	2016年
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名	2016年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia	2016年
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名	2016年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名	2016年 6 . 最初と最後の頁
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy	2016年 6.最初と最後の頁 1-10
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2016年 6.最初と最後の頁 1-10 査読の有無
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名	2016年 6.最初と最後の頁 1-10
2. 論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3. 雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109	2016年 6.最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109 オープンアクセス	2016年 6.最初と最後の頁 1-10 査読の有無
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109	2016年 6.最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109	2016年 6.最初と最後の頁 1-10 査読の有無 有
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 -
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 -
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 10
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi 2.論文標題	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 10
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年 2016年
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年
2 . 論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3 . 雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2 . 論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks  3 . 雑誌名	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁
2 . 論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3 . 雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2 . 論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年 2016年
2 . 論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia  3 . 雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2 . 論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks  3 . 雑誌名	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 -  4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks  3.雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks 3.雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks  3.雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有  国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks 3.雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3. 雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2. 論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks 3. 雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnsys.2016.00094	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8  査読の有無 有
2.論文標題 The Pedunculopontine Tegmental Nucleus as a Motor and Cognitive Interface between the Cerebellum and Basal Ganglia 3.雑誌名 Frontiers in Neuroanatomy  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnana.2016.00109  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Ken-ichi Okada, Yasushi Kobayashi  2.論文標題 Reward and Behavioral Factors Contributing to the Tonic Activity of Monkey Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons during Saccade Tasks 3.雑誌名 Frontiers in Systems Neuroscience	2016年 6.最初と最後の頁 1-10  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10  5.発行年 2016年 6.最初と最後の頁 1-8

1. 著名名		. 211
2 : 論文標題 A powerful test for Salasan's design 2015年 2015年 2015年 2015年 2015年 2015年 2015年 2015年 3 : 補託名		_
A powerful test for Salasan's design 3 . 結該名 6 . 最初と競技の頁 464-470 10 .1002/pst.1703 2 . 高の有無 7 .	MOTI, J. AND NAMO, T.	14
A powerful test for Salasan's design 3 . 結該名 6 . 最初と競技の頁 464-470 10 .1002/pst.1703 2 . 高の有無 7 .		
3. 結誌名   1. 最初と監検の頁   464-470	2.論文標題	5.発行年
3. 結誌名   1. 最初と監検の頁   464-470	A powerful test for Balaam's design	2015年
Pharmaceutical Statistics   464-470		
Pharmaceutical Statistics   464-470	3	6 是初と是後の百
機能論文のDOI(デジタルオブジェクト議別子) 10.1002/pst.1703 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 Eshina、N., Tabata、M., Borroni、C.G., and Kano、Y 2. 論文機能 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic ridea 3. 報話名 Entropy 10.3390/e17075117 オープンアクセス 日際共著 オープンアクセス フ・デンタルオブジェクト議別子) 10.3390/e17075117 カープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著者名 1. 著者名 1. 著者名 1. 語彙者名 1. 音音名 1. 語彙者名 1. 記述者名		
10.1002/pst.1703   有	Pharmaceutical Statistics	464-470
10.1002/pst.1703   有		
10.1002/pst.1703   有		
1 ・ 著名名   下記	掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
1 ・ 著名名   下記	10.1002/pst.1703	有
1 . 著者名 Eshina, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y 2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic lobal analysis of structural generalized linear models: A basic lobal Entropy		
1 . 著者名 Eshina, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y 2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic lobal analysis of structural generalized linear models: A basic lobal Entropy	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 Eshima, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y 2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic idea 3 . 議語名 Entropy  【思顧論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/e17075117		
Eshima, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y  2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic close 3 . 雑誌名	a John Excellent ( & Z. Connections)	_
Eshima, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y  2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic close 3 . 雑誌名		I . w
2. 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic loads Entropy  1. 議議会 Entropy  1. 表書名	1.著者名	4.巻
2 . 論文標題 An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic idea 3 . 雑誌名 Entropy  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	Eshima, N., Tabata, M., Borroni, C.G., and Kano, Y	17
An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic idea  3. 雑誌名		
An entropy-based approach to path analysis of structural generalized linear models: A basic idea  3. 雑誌名	2.論文標題	5.発行年
idea 3 . 雑誌名 Entropy Entropy Entropy  超数論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/e17075117  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Okada, K. and Kobayashi, Y.  2 . 論文持法 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3 . 雑誌名 PLoS One  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Wohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 2 . 論文標題 Aープンアクセス  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Wohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 2 . 論文標題 Apple Colorer  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Wohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 2 . 論文標題 Cap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. 3 . 雑誌名 PLoS One  「表現び母親女の母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母母		
3 . 雑誌名 Entropy		20134
#報論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/e17075117		C 871 876 5
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.3390/e17075117		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Entropy	5117-5132
10.3390/e17075117 有		
10.3390/e17075117 有		
10.3390/e17075117 有	掲載論文のDOL(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する 1 著者名 Okada, K. and Kobayashi, Y. 10 10 15 無対標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3 確認名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 e0128147 2 10.1371/journal .pone.0128147 2 10.1371/journal .pone.0128147 3 10.1371/journal .pone.0128147 2 10.1371/journal .pone.0128147 3 10.1371/journal .pone.0128147 2 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10		
### A - ブンアクセスとしている(また、その予定である)    ***	10.33907617073117	1
### A - ブンアクセスとしている(また、その予定である)    ***		同咖井茶
1. 著者名 Okada, K. and Kobayashi, Y.  2. 論文標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3. 雑誌名 PLOS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  本ープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Delicit Hyperactivity Disorder.  3. 雑誌名 PLOS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  看読の有無 10.1371/journal.pone.0125573  国際共著	· · · · · · - · ·	
0 kada, K. and Kobayashi, Y. 10  2 . 論文標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 e0128147  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 10  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. 10.1371/journal.pone.0125573  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  a Missa	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
0 kada, K. and Kobayashi, Y. 10  2 . 論文標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 e0128147  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 10  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. 10.1371/journal.pone.0125573  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  a Missa		
2. 論文標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	1 . 著者名	4 . 巻
2. 論文標題 Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	Okada K and Kohayashi Y	10
Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 10.1371/journal.pone.0128147	onduc, it and nobayatin, it	
Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 10.1371/journal.pone.0128147	2 经分据時	F
Task 3.雑誌名 PLoS One 6.最初と最後の頁 e0128147  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オーブンアクセス オーブンアクセスとしている(また、その予定である) 1.著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. 3.雑誌名 PLoS One 6.最初と最後の頁 e0125573  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  有 オーブンアクセス 国際共著		
3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 e0128147  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  I 画際共著  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  「も、最初と最後の頁 e0125573  「も、最初と最後の頁 e0125573  「直読の有無 有  オープンアクセス  国際共著		
PLoS One e0128147  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  お	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task	2015年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3. 雑誌名 PLoS One  お グラクトオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  査読の有無 有 オープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task	2015年
### 10.1371/journal.pone.0128147 有	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3.雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁
### 10.1371/journal.pone.0128147 有	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3.雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁
### 10.1371/journal.pone.0128147 有	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3.雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  「本ープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3.雑誌名 PLoS One	2015年 6 . 最初と最後の頁 e0128147
コ・著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  「書読の有無 イープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無
コ・著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  「書読の有無 イープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無
1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .1371/journal.pone.0125573  直読の有無 オープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無 有
1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .1371/journal.pone.0125573  直読の有無 オープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無 有
Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 10  2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One 6.最初と最後の頁e0125573  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  有  オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無 有
Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y. 10  2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One 6.最初と最後の頁e0125573  掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  有  オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147 査読の有無 有
2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  有  オープンアクセス  5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁 e0125573	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著
Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573  有  オープンアクセス  国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著
Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One 6 . 最初と最後の頁 e0125573  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著
Deficit Hyperactivity Disorder.         3.雑誌名 PLoS One       6.最初と最後の頁 e0125573         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻
Deficit Hyperactivity Disorder.         3.雑誌名 PLoS One       6.最初と最後の頁 e0125573         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573       査読の有無 有         オープンアクセス       国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻
3.雑誌名 PLOS One6.最初と最後の頁 e0125573掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573査読の有無 有オープンアクセス国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年
PLoS One       e0125573         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子)       査読の有無         10.1371/journal.pone.0125573       有         オープンアクセス       国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.	2015年  6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有  国際共著  -  4.巻 10  5.発行年 2015年
10.1371/journal.pone.0125573 有 オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3. 雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁
10.1371/journal.pone.0125573 有 オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task 3.雑誌名 PLoS One 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder. 3.雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁
10.1371/journal.pone.0125573 有 オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3. 雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁 e0125573
オープンアクセス 国際共著	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3. 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2. 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3. 雑誌名	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁 e0125573
	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁 e0125573
	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2.論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3.雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	2015年 6.最初と最後の頁 e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁 e0125573
	Rhythmic Firing of Pedunculopontine Tegmental Nucleus Neurons in Monkeys during Eye Movement Task  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0128147  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Matsuo Y, Watanabe M, Taniike M, Mohri I, Kobashi S, Tachibana M, Kobayashi Y, Kitamura Y.  2 . 論文標題 Gap Effect Abnormalities during a Visually Guided Pro-Saccade Task in Children with Attention Deficit Hyperactivity Disorder.  3 . 雑誌名 PLoS One  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0125573	2015年 6.最初と最後の頁e0128147  査読の有無 有 国際共著 - 4.巻 10 5.発行年 2015年 6.最初と最後の頁e0125573  査読の有無 有

〔学会発表〕 計21件(うち招待講演 4件/うち国際学会 8件)
1.発表者名 Nagase, M. and Kano, Y.
Nagase, W. and Kano, T.
2 . 発表標題
Cyclic Nonlinear Structural Equation Models
2
3 . 学会等名 Joint Statistical Meeting(国際学会)
4 . 発表年 2017年
20174
1 . 発表者名
伊森晋平・寺田吉壱
2 . 発表標題
・元ペ(元成) 補助変数のスクリーニング法について
3 . 学会等名
2017年度統計関連学会連合大会
4.発表年
2017年
1.発表者名
Matsuoka, Y. and Hamada, E.
2 . 発表標題 Nonparametric causal inference by the kernel method
Nonparametric causar inference by the kerner method
3 . 学会等名
The 10th Conference of the IASC-ARS(国際学会)
4 . 発表年
2017年
1
1.発表者名 Kurata, S. and Hamada, E.
2 . 発表標題
A robust model selection criterion family and its application for the causal model
2
3 . 学会等名 Conference of the International Federation of Classification Societies(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2017年
2011

1.発表者名
寺田・亘・濵田悦生
2.発表標題 Covariate Balancingに基づいた高次元データにおける頑健な因果効果の推定
oovallate balanomyに至フいに同人ルノーテにのける原庭な凶木刈木ツ推た
3.学会等名
第12回日本統計学会春季集会 ポスターセッション
2018年
1
1 . 発表者名 春野雅彦・森数馬
2 . 発表標題
ソーシャルネットワーキングサービスの神経科学
3.字云寺石 第40回日本神経科学大会
4 . 発表年 2017年
1.発表者名
春野雅彦
2.発表標題
社会脳科学の最近の発展
3.学会等名 ・ 大会体工学セミナー(切合業家)
生命体工学セミナー(招待講演)
4 . 発表年
2017年
1.発表者名
齋藤洋一,宇賀 太一,船本 万里 ,森 風美加,平石 幹,岡田 研一,小林 康,眞野 智生
2 及丰+西西
2 . 発表標題 パーキンソン病患者における反復経頭蓋磁気刺激治療前後の眼球運動評価
THE STATE OF THE S
3 . 学会等名
第40回日本神経科学大会
4.発表年
2017年

1 . 発表者名 Morikawa, K., Imori, S. and Kano, Y.
2 . 発表標題 A New Information Criterion for Ignorable Missing Data
3 . 学会等名 IC-SMHD-2016 (国際学会)
4 . 発表年 2016年
1 . 発表者名 Imori, S. and Shimodaira, H.
2 . 発表標題 An information criterion for partially prediction with incomplete data
3 . 学会等名 IC-SMHD-2016(国際学会)
4.発表年 2016年
1 . 発表者名 Nagase, M. and Kano, Y.
2 . 発表標題 Cyclic Structural Equation Models and Their Identifiability
3 . 学会等名 ISI Regional Statistics Conference(国際学会)
4.発表年 2017年
1 . 発表者名 Morikawa, K. and Kim, J. K.
2 . 発表標題 Semiparametric Efficient Estimation Under Nonignorable Nonresponse I
3 . 学会等名 KAIST Statistical Workshop(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名   本
つ 英字価値
2. 発表標題 Comparisons Among Doubly Robust Estimators in Restricted Moment Models
סטוויףמוז סווס אוויסווק שטעטון איטעסג בסנווומנטוס ווו אפסנוויטנפע אוטוופות אוטעפוס
2
3.学会等名 2016年度統計関連学会連合大会
4.発表年
2016年
1.発表者名
「・光な自由   森川遼真・森川耕輔・狩野 裕
congeniality と over-imputation を用いた傾向スコアの推定
第11回日本統計学会春季集会 ポスターセッション
4 . 発表年 2017年
ZUII +
1.発表者名
Kano, Y.
2.発表標題
Developments in multivariate missing data analysis
3 . 学会等名
International Meeting of the Psychometric Society 2015(招待講演)(国際学会)
│
2015年
1.発表者名
長瀬真利雄,狩野 裕
2.発表標題   非逐次モデルの識別性について
2
3 . 学会等名   2015年度統計関連学会連合大会
2010年度MURII内在プム柱ロハム
4 . 発表年
2015年

1.発表者名 坂口弘樹,狩野 裕
2 . 発表標題 一般化線形混合モデルにおけるランダム効果の分布の誤特定による推定への影響
3 . 学会等名 2015年度統計関連学会連合大会
4 . 発表年 2015年
1.発表者名 上野真依,狩野 裕
2 . 発表標題 順序のあるカテゴリカルデータに対するノンパラメトリックベイズモデリング
3 . 学会等名 2015年度統計関連学会連合大会
4 . 発表年 2015年
1.発表者名 倉田澄人,濵田悦生
2 . 発表標題 回帰モデルの選択規準と外れ値に対するロバスト性の検証
3 . 学会等名 第10回日本統計学会春季集会 ポスターセッション
4 . 発表年 2016年
1.発表者名 倉田澄人,濵田悦生
2 . 発表標題 ダイバージェンスに基づいたロバストなモデル選択について
3 . 学会等名 シンポジウム「欠測データ解析とモデル選択:生体情報データの統計モデル」
4 . 発表年 2016年

1	. 発表者名
	森川耕輔・伊森晋平・狩野・裕
7	
-	不完全データにおける情報量規準
	17ルエノ ノにのける旧私里ペキ
3	3.学会等名
	日本行動計量学会第43回大会
	· . 発表年
	2015年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6 . 研究組織

	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	乾 敏郎	追手門学院大学・心理学部・教授	
研究分担者	(Inui Toshiro)		
	(30107015)	(34415)	
研究分担者	春野 雅彦 (Haruo Masahiko)	国立研究開発法人情報通信研究機構・脳情報通信融合研究センター脳情報工学研究室・研究マネージャー	
	(40395124)	(82636)	
	野村 泰伸	大阪大学・基礎工学研究科・教授	
研究分担者	(Nomura Taishin)		
	(50283734)	(14401)	
研究分担者	村田 昇 (Murata Noboru)	早稲田大学・理工学術院・教授	
	(60242038)	(32689)	
	森川 耕輔	大阪大学・基礎工学研究科・助教	
研究分担者	(Morikawa Kosuke)		
	(40824305)	(14401)	
<u> </u>	(10021000)	()	

### 6.研究組織(つづき)

	・ M 元 元 元 成 ( フラピ ) 氏名 ( 研究者番号 )	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
	小林 康	大阪大学・生命機能研究科・准教授	
研究分担者	(Kobayashi Yasushi)		
	(60311198)	(14401)	
	演田 悦生	大阪大学・基礎工学研究科・特任教授	
連携研究者	(Hamada Etsuo) (20273617)	(14401)	
連携研究者	伊森 晋平 (Imori Shinpei)	広島大学・理学研究科・助教	
	(80747345)	(15401)	